

宮崎県総合博物館だより

森の通信

第1号

発行
宮崎県総合博物館
〒880
宮崎市神宮2丁目4の4
TEL(0985)24-2071
発行日
昭和60年3月20日



獣文縁獣帯鏡

児湯郡高嶺町持田計塚出土

径18.0cm 5世紀

平縁の後漢鏡で、半肉彫の獣帯鏡である。外区は獣帯で、内区は7つの四葉座の小孔で分画された中に、7つの聖獣が表現されている。鈕座をめぐる連珠文圏の乳間に「君宜子孫」の銘がある。児湯郡新富町山の坊古墳の2面と、熊本県宇土郡不知火町国越古墳の1面が同型鏡である。

館長 あいさつ

毎朝出勤するのに、森の道をとおってきます。宮崎県総合博物館は宮崎神宮の森のなかにあります。お社のある裏手にあたるわけですが、今でも「博物館はどのあたりにあるのですか」とたずねられます。昭和46年にオープンしたわけですから、やがて14年たって県民の方たちにおなじみでなければならぬのですが、まだ十分に知られていないのは残念です。現在は情報化時代といわれ、情報が私たちのまわりにあふれています。情報を求める時代から選択の時代になっています。しかし一方ではまだまだ分らない部分、ゆきわたっていないところもあります。今度宮崎県総合博物館だより「森の通信」を出すことになりました。以前、51年ごろから「博物館ニュース」を出していたのですが中断していました。もちろん「博物館ニュース」の良いところをとって、さらに一層親しみやすいものにしていこうというものです。特別展や企画展、話題のコーナー、森のコンサート、森の名画座、自然観察会、採集作品展、学習会など年間の行事紹介のほか、収蔵資料の解説、トピックなど、少しでも博物館と県民の皆さんとの距離を近くし、ぬくもりのある通信にしたいと思います。タイトルも、親しみやすい「森の通信」にしたのもそのふくみがあります。森のコンサート、森の名画座はすでに県民の皆様になじみがあり定着しております。宮崎市街区域では緑の最も濃い地帯の1つであります。他県から来館した人たちはこの森の美しさ、そのなかにある博物館を羨しがります。すぐれた環境にある博物館は県民の皆様にも秀れた内容をもつ充実したものにならなければならないと思っています。この通信をパイプとして一層のご指導をお願いする次第です。

館長 黒木 淳吉

展 示 案 内

(考 古)

考古展示は、先史時代から古墳時代まで全体を4つの時代に区分し、5つのコーナーで紹介しています。先土器時代は、日の影町出羽洞穴の石器や、児湯郡各地から採集された後期旧石器を、縄文時代は、高千穂町陣内遺跡の土器や土偶、石棒をはじめ県内各地から出土した土器や狩猟・漁撈などに使われた石器類、弥生時代は、宮崎市徳遺跡の甕棺や野尻町大萩遺跡の土器など、当時の人々の日常生活や葬送儀礼を示すものを中心に時代をおって、一部レプリカもまじえて展示しています。古墳時代は、この時代最大のモニュメントである西都市西都原古墳群や高鍋町持田古墳群など高塚古墳から出土した三角縁神獣鏡や埴輪、玉類と、これと対比した形で日向特有の地下式横穴出土品に焦点をあわせて紹介しています。この他、地下式横穴に葬られた人々を紹介した古代人コーナーがあります。

(民 俗)

農家の茶の間と台所周辺の常設展示に加えて、コーナーや壁面を利用し「季節の展示」として年数回の展示替えをしています。

現在、季節の展示として、「日本のたごこま」を展示しています。

我国は竹や和紙にめぐまれ、そのうえ錦絵の技術も普及し、江戸時代から各地で郷土だこが盛んにつくられました。冬の子供の遊びでは、たこあげがいちばんよろこばれていたものです。郷土だこの中から、北海道のいかのぼり、秋田の女べらぼう、東京の江戸錦絵だこ、静岡のとんがり、愛知の天神だこ、香川のむかでだこ、山口の鬼ようず、長崎のパラモン、沖縄のマッタークなど45点を展示しています。こまもかつては少年達の正月の遊びでしたが、現在はほとんど見ることができなくなりました。佐土原の神代ごま、高岡のしよしよ、小林のうちごま、ひっごまなど23点を展示しています。

(歴 史)

歴史コーナーでは、神代、古代の宮崎県を知るうえで貴重な資料といわれる「天書」をはじめとして、西都市三宅の国分寺瓦や平安末期の薬師如来、阿弥陀像など文化財指定にされている資料を展示しています。中世資料では、建久凶田帳（複写）をはじめ、伊東家に伝わる「天盃」（天皇から賜わった盃）や宮崎城落城時の悲運の将、権藤種盛の甲冑を中心として展示しています。近世では、延岡高鍋、佐土原、鉄肥の四藩に区分し、延岡内藤家露沾公の甲冑、高鍋藩古地図、佐土原島津藩士の陣笠、鉄肥伊東家家臣松浦家甲冑、さらに、戊辰戦争関係資料など展示しています。近代の日向では、西南戦争関係資料の官軍日誌、薩軍の刀剣などをはじめとして西郷札などを展示しています。さらに、話題のコーナーとして、若山牧水、秋月種樹、古月などの日向名筆をあつめて紹介しています。

(自 然)

一年中温暖な宮崎県には、豊かな自然があります。本館では、その恵まれた自然を、動物、植物・地質の面から紹介しています。

その中からおもなものをあげてみると、都井岬の野生馬やソテツの自生地・県木フェニックスについて説明をしたコーナーや、青島の波状岩（鬼の洗濯岩）やピローの成長のようすや青島付近にすむ水鳥などを紹介し、あわせて、海中の造礁サンゴや生物の生態についても展示しています。また、本県唯一の火山である霧島のコーナーでは霧島火山のでき方、そこに分布している動・植物などをあげています。県北の大崩山のコーナーではニホンカモシカをはじめとする動物・世界にほこるツチビノキ・ミヤマゼキショウ・キバナノツキヌキホトトギス等について説明がなされています。また、自然史入口にはナウマンゾウのコーナーがあり、本県西都市産のナウマンゾウ化石（顎骨・臼歯）も展示しています。

(美術)

常設展「瑛九とその周辺」

瑛九は1911年宮崎市に生まれる。本名杉田秀夫。中学校を退学し上京、日本美術学校で洋画。オリエンタル写真学校で写真を学ぶ。



動物達 (1951) フォト・デッサン (45.5×55.4)

1951年デモクラート美術協会を結成し前衛美術の活動をしました。池田満寿夫、泉茂、加藤正毅等に影響を及ぼしました。本展では、瑛九の油彩、版画、フォトグラフィを中心に、彼と関連のあった作家たちを本館収蔵作品の中より展示紹介をします。

(西都原資料館)

資料館には、考古資料展示室と民俗資料展示室とがあります。考古資料展示室には、大正1～6年に全国に先がけて西都原古墳が発掘調査されたときの出土品の一部をはじめ、その後発見された地下式横穴墓出土の短甲類、西都市周辺地域から採集された石器、土器などを展示しています。主なものとしては、169号墳から出土し、全国で唯一の出土品になっている子持家形埴輪や舟形埴輪(複製)などがあります。金銅製馬具類、神獣鏡等の鏡類、線刻壁画の見られる佐土原土器田横穴墓のレプリカ、更に国分寺跡の瓦などを展示しています。

民俗資料展示室には、国の重要文化財に指定されている東米良の火縄銃、たちあげ等の狩猟用具29点を初めとして、西都市周辺の山麩用具、わな類、農耕具、漁撈用具等を展示しています。現在、季節の展示として暖房器具等も展示中です。

(埋蔵文化財センター)



昭和57年10月にオープンした施設で、県内の遺跡から出土した土器・石器・鉄器などの整理・収蔵を主な仕事としているほか、埋蔵文化財に関する図書類の整備や埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙なども行っています。

展示室では、常設として発掘調査から報告書のできるまでの工程や県内の遺跡の状況など「埋蔵文化財のしごと」について展示しています。また、話題を呼んだ遺跡について年2回展示替を行い、紹介しています。

(総務課から)

宮崎県総合博物館は、本館(常設展示室・特別展示室・美術館)県民文化ホール・民家園・埋蔵文化財センターと西都市にある西都原資料館から成りたっています。

場所は、宮崎神宮の北に隣接し、緑の森に囲まれた良い環境のなかにあります。

昭和60年度の主な事業を紹介すると特別展として「ミレーとバルビソンの画家たち」「フランス近代絵画の歩み展」「日本秀作美術展」「おんな」展と四つのテーマが企画されています。そのほか「塩月桃甫展」「日向の名筆展」などの催しも予定されています。

県民文化ホールでは森の名画座と銘打って洋画4本、邦画4本の計8本の作品を上映予定しています。また、森のコンサートも年間4回開きます。森の名画座、森のコンサートは入場無料です。

詳しいことは電話24-2071へお問い合わせください。

